

## 週報

## こひつじ

第40巻 30号  
 大津キリスト教会  
 菊池郡大津町室 119  
 TEL 096-293-4470  
 FAX 096-293-4961  
 牧師 米村 英二

## 祝祭の人生を生きる

## その三 主が完了してくださったもの

ではイエスは何を完了してくださったのか。

第一は、罪の問題である。

私は、クリスチャンになって、

もつとりつばな人間になれると思っていた。しかし、なれなかった。「人は罪を犯すべからざる者にして、罪を犯す者なり。彼は天使と七の一九」私は、ほんとうにみじなりうるの資格を備えながら、しめな人間です」(同二四)

と内村鑑三は『求安録』の冒頭に書いているが、まさにそれが私だった。

若いとき『ブレインードの日記』を読み、彼の真実な信仰に心を打

たれ、ああ、彼のように生きられたいと願った。が、現実には挫折の連続だった。私は疲れ、そして叫んだ。

「私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行なっています」(ローマ七の一九)

あなたはその問題はすでに私が十字架の上で解決したと。

私は感謝に溢れた。そしてパウロとともにこう叫んだ。「神に選ばれた人々を訴えるのは

だれですか。神が義と認めてくださるのです。罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしてくださったのです」(ローマ八の二三、三四)

ルターも同じ体験をしたに違いない。そこで彼は言った。

「罪人でありなさい。大胆に罪を犯しなさい。しかし、もつと大胆にキリストを信じ、喜びなさい」

なぜこれほどまでに喜べるのか。イエスがすべてを完了してくださったからである。

第二は、死の問題である。

死ほどにわれわれを脅かしてきたものがあつたらうか。

ところが、私たちの最大の悩みである死の問題をイエスはすでに解決してくださっている。彼自身が死に、復活することによって死

を明らかにしてくださったのだ。だからパウロは言った。

「私にとつては、生きることはキリスト、死ぬこともまた益です」

(ピリピの二)

イエスもヨハネ一四章の冒頭で言われた。

「あなたがたは心を騒がしてはなりません」「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります」「わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもて迎えます」

人生は死で終わりではない。死後、私たちのために備えられた場所がある。

だから祝うべきなのである。さらにイエスは私たちの人生そのものを、すでに完了してくださっている。

だから将来を心配する必要はまったくない。ただ、イエスによつてすでに成し遂げられた人生を生きればよいのである。

パウロも言っている。「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きていますのではなく、キリストが私

のうちに生きておられるのです」(ガラテヤ二の二〇)

パウロによれば、私たちの人生はすでに終わり、イエスが代わつ

